



保護者アンケートの結果について

冬季休業前にお願いした「学校の取組に関するアンケート」の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。Ⅰ・Ⅱは99.6%、Ⅲ・Ⅳは100%のご家庭からご意見をいただきました。たくさんの保護者の方々からご協力をいただきことに感謝申し上げます。

調査結果については、教職員による学校評価（自己評価）の結果や、子どもたちを対象にした学校生活アンケートの結果などを踏まえ、成果と課題について全教職員で話し合い、今年度中や次年度の教育活動に反映させることができるようにしていきます。

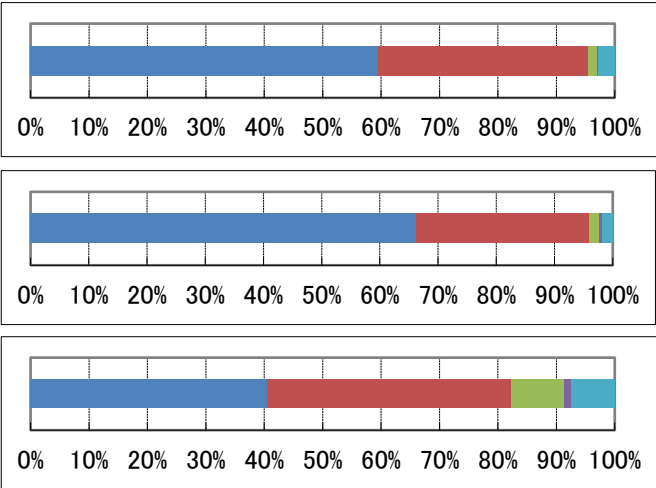
また、学校評議員や教育後援会、PTA三役の方々からもご助言をいただきました。これらをもとに、家庭と学校との連携を一層密にするとともに、子どもたちの「自律」につながる取組が一層充実するよう、今後も教育活動に励んでいきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【回答数】「Ⅰ・Ⅱ」：459世帯（回収率 99.6%）、「Ⅲ・Ⅳ」：554世帯（回収率100%）

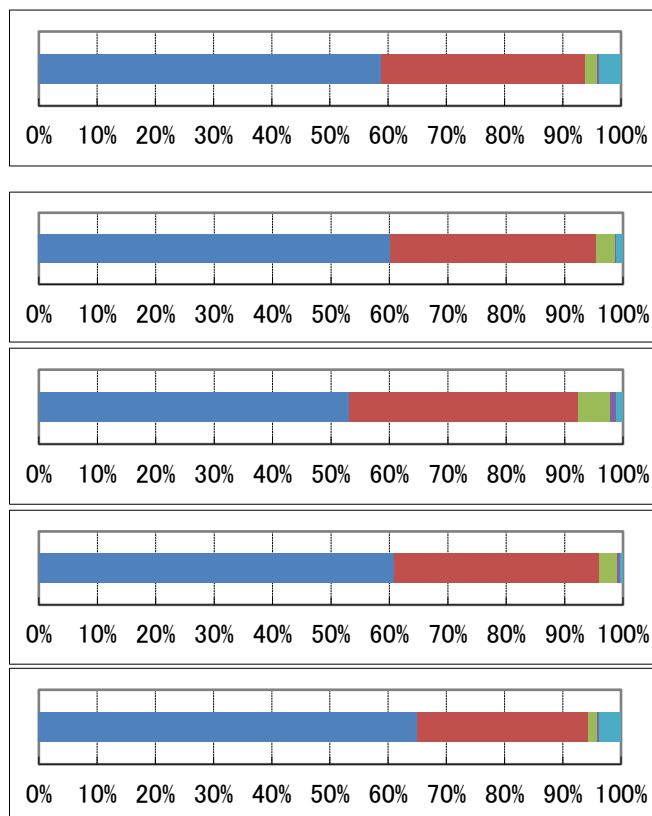
A	B	C	D	
そう思う	どちらかといえ ばそう思う	あまり 思わない	思わない	無 答

Ⅰ 学校全体の取組について 「学校は……」

- 1 学校教育目標「自律」や目指す子ども像に向かい、様々な教育活動に積極的に取り組んでいる。
- 2 学校行事（はとの子運動会、修学旅行、校外学習等）をはじめ、様々な活動を通して、子どもたちが意欲的に活動できるよう指導・支援している。
- 3 子どもたちの学校生活の様子をしっかりと見守り、いじめのない学校にしようと努力している。



- 4 附属四校園の連携・交流活動（幼稚園とのなかよし活動、中学校との交流学习への参加、特別支援学校とのよつば学習＜障害理解教育＞）を積極的に行い、附属学校全体で教育の充実に取り組んでいる。
- 5 避難訓練、防犯訓練、感染防止対策、緊急メール等を整えるなど、子どもの安全を守るために様々な取組を行っている。
- 6 夏季休業前の「保護者面談」をはじめ、子どものことでいつでも先生方と相談できる体制が整っている。
- 7 校報「はとの子だより」や「のびのび通信」、学年通信、保健だより等の各種通信やホームページやオンライン等を通して、学校や子どもたちの活動の様子を伝えている。
- 8 授業研究会（オンライン）等を通し、学校の取組を広く発信する努力をしている。



【結果の分析と今後の取組の方向】

I について

AB合わせた評価は、8項目とも昨年度並みの数値でした。

昨年度に比べて、A評価について、項目2「学校行事における指導・支援」が12ポイント、項目6「相談体制」が5ポイント、項目7「学校の取組の発信」が18ポイント、それぞれに上昇しました。項目3「いじめのない学校づくりに向けた努力」は、A評価が昨年度に8ポイント程度減少しましたが、今年度も回復の傾向が見られませんでした。項目5「安全を守る取組」は、A評価が昨年度から9ポイント程度減少しました。

○項目1「学校教育目標の具現に向けた積極的な取組」については、A評価が2ポイント程度の微増という結果でした。今年度は、学校経営のグランドデザイン図を一新しました。「本校で育てたい資質・能力」についても、伝わりやすい表現に改めると共に、その具現につながったことや、つながる可能性を含んだ出来事について、学校報やホームページ上で発信してきました。取組の成果と課題が各家庭に伝わるように、折に触れて学校経営の重点事項との関連を明確にするなど、意味付けや価値付けを一層強化していきたいと考えています。

○項目2「学校行事における指導・支援」については、コロナ禍における諸制限が解除されたことに加え、制限下での試みも生かしながら、行事の実施時期や形態を見直しました。特に運動会では、児童が主体的に趣向走を考案するなど、児童が活躍する場面を取り入れようとした学校の方針が各家庭に伝わったものと受け止めています。

○項目3「いじめのない学校づくりに向けた努力」については、依然としてAB合わせた評価が低い状況です。学校では、年2回の学校生活アンケートや、Hyper-QUなど、諸調査を活用して実態把握に務め、いじめの芽を摘むことができるよう努力してきました。子どもや家庭からの悩みや訴えについては、今年度1月末の時点で138件程度の事案のうち39件は解消し、残りの事案についても、解消に向けて努力を継続しているところです。昨年度は、180件超の事案の98%を解消していますので、今後も、日々の子どもの関係性の把握に務めるとともに、複数の教員やスクールカウンセラーなどの組織の力を生かして一人一人の悩みや困り感に寄り添い、「誰もがいじめの被害者にも加害者にもなり得る」という危機感をもって対応していきます。

○項目4「障害理解教育の充実」については、子ども一人一人の異なる個性について相互の理解を深め、助け合い支え合っていくことができる共生社会の実現を目指すことを、学校の重点的な取組の一つとしています。総合的な学習の時間に実施してきた「よつば学習」は、特別支援教育学校からの助言もいただき「多様性理解学習」へとステージを上げ、各教育活動に反映させてきました。その取組の一端は、公開研究協議会において国語科や特別活動など様々な教科等に波及させて提案し、その効果を検証しているところです。今後は、その取組の状況がより一層、各家庭に発信できるようにしていきます。

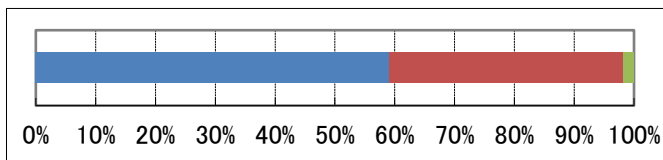
○項目5「安全を守る取組」については、子どもの事故件数は減少しているほか、各種防災訓練について不断の改善に務めてきましたが、その成果について情報発信が十分ではなかったと反省しています。今年度から、緊急メールアプリを活用したことによって、初期連絡の簡易化と効率化が図られただけでなく、初期連絡後の迅速かつ丁寧な相談体制につながる成果が見られていますが、不便さや不十分さを感じている声に真摯に耳を傾けていくよう情報収集に努めます。

○項目6「保護者との相談体制」については、組織としての丁寧な対応を心がけてきました。困り事やトラブル等については、表面的な解決を目指すだけでなく、子どもの内面に響く対応や支援が必要であることについて全教職員で共通理解を図り、絶えず組織としての連携を大切にしながら取り組んできました。今後も、問題解決的な姿勢を崩すことなく、問題行動等の未然防止に務めることができるよう、積極的な働き掛けを重視していきます。

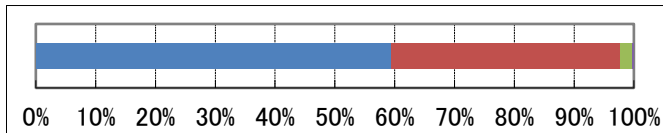
○項目7「学校の取組の発信」については、各種研究会が完全な形で実施できるようになり、保護者の方々にもご参観いただく機会を設けたことにより、開かれた学校としての機能が回復してきたことが、18ポイントの上昇という良好な評価結果につながったものと考えています。来年度以降も、現状に甘んずることなく様々な工夫改善を行うことで、研究の成果が各家庭にも分かりやすい形で伝わり、子どもたちの学習や生活に還元していくことができるようにしていきます。

II 保護者の意識について 「自分は……」

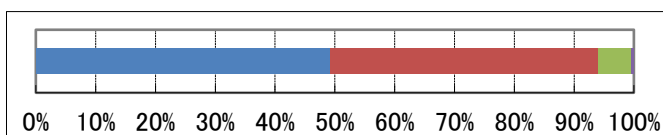
- 1 学校の教育方針や活動について、関心をもっている。



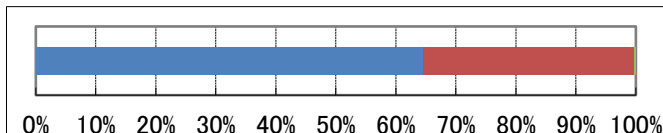
- 2 学校からのお便りや連絡プリント、緊急メールをよく読んでいる。



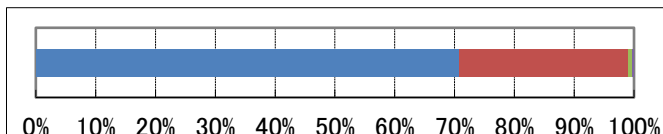
- 3 PTA活動（参観日、懇談会、事業部の行事等）に進んで参加し、協力している。



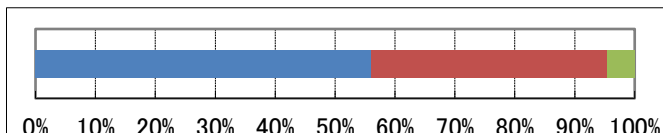
- 4 家庭での規則正しい生活が、子どもの学校生活を支えているということを意識して、子どもにかかわっている。



- 5 学校の登下校の約束（徒歩または公共の交通手段で）をきちんと守らせている。



- 6 家庭で、子どもと学校のこと（学習、出来事、友達、先生等）をよく話題にして会話している。



【結果の分析と今後の取組の方向】

Ⅱについて

AB合わせた評価は、6項目とも昨年度並みの数値です。

項目5「登下校の約束の遵守」はA評価が4ポイント、項目6「学校を話題にした家庭での会話」はA評価が5ポイント、それぞれに低下しました。項目3「PTA活動への協力」では依然として50%を切ったままです。

○項目1「学校の教育方針等への関心」、項目4「家庭での規則正しい生活」は、100%に近い数値で高止まりしています。今後も学校への期待に応え、各家庭との連携に高い意識をもって臨んでいきます。「学校が楽しい」「友達や先生といつでも協力できる」と子どもたちが胸を張って言える学校になるために、日々の教育活動の在り方を常に見直し、工夫改善に努めていきます。

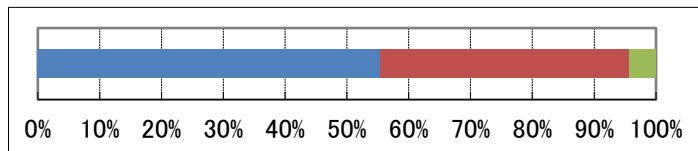
○項目2「学校からの連絡への対応」は、今年度からメールアプリの本格的な導入を行いました。ここまで大過なく機能しているものと捉えています。緊急メールの中には、豪雨や暴風雪など緊急性の高いものも含まれることから、できるだけ日に数度は確認していただけるようお願いいたします。

○項目5「登下校の約束」も100%に近い数値です。今年度は、子どもたちの挨拶のよさについて評価をいただくことが更に増えている一方で、バスの乗車マナーや一部の保護者の方々の送迎ルールの違反により、一般市民特に近隣住民からの苦情は少なくありませんでした。秋田駅周辺での下校態度についても、厳しいご指摘の電話が何度か入りました。登下校指導や校外生活指導部による巡回指導等を通して改善に努めていきますので、各家庭からの理解と協力を切にお願いします。

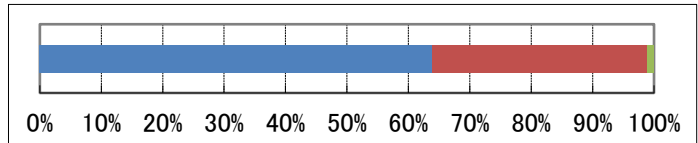
○項目3「PTA活動への協力」については、久しぶりのフル活動になったことから、運営方法などについて共通理解を計り直す機会がありました。その分、保護者相互あるいは学校とのコミュニケーションは活発になり、見直すべきは見直しながら新しい組織運営に向けた意識が向上していることを実感しています。

Ⅲ 教職員の取組について 「先生は……」

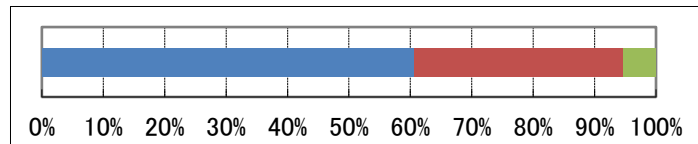
1 子どもの悩みやトラブルに対して親身になって対応している。



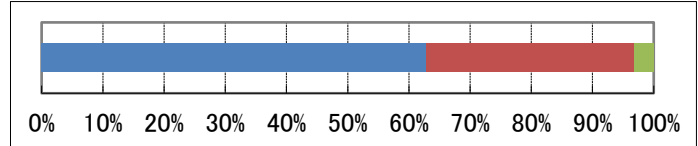
2 子どもがきまりを守るように、しっかり指導している。



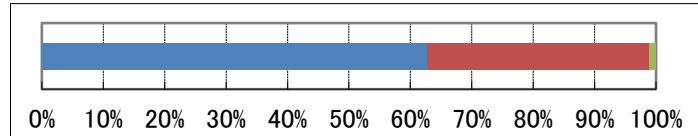
3 子どものよさ（能力や適性）を理解しようと努力している。



4 子どもたちの体験を重視したり、自分でよく考えられるようにしたりするなど、授業を工夫している。



5 分かりやすい授業を目指し、努力している。



【結果の分析と今後の取組の方向】

Ⅲについて

依然としてどの項目も95%以上の水準を維持しています。A評価が微減ですが、B評価を合わせると、5項目とも昨年度より微増という傾向にあります。

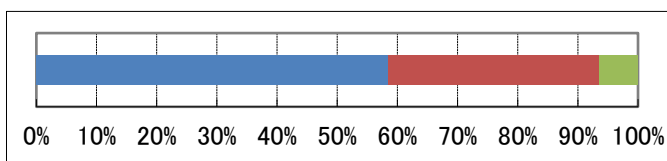
項目1「悩みやトラブルへの親身な対応」、項目2「きまりを守る指導」のA評価は、昨年度から5ポイントほど減少しました。

○項目1「悩みやトラブルへの親身な対応」については、トラブルや悩み事について、表面的な解決を目指すのではなく、その背景や要因について広く深く情報収集に当たり、子どもの心に寄り添うことができるようにすることを、全教職員で共通理解して対応に努めています。また、人間関係に端を発する問題については、複数の教員で対応したり、子ども自身が問題解決に取り組める余地を徐々に広げたりするなど、積極的に自己指導能力を高めるための支援を続けているところです。不十分な点については真摯に受け止め、今後も各家庭との対話を粘り強く進めながら、解決に努めていきます。

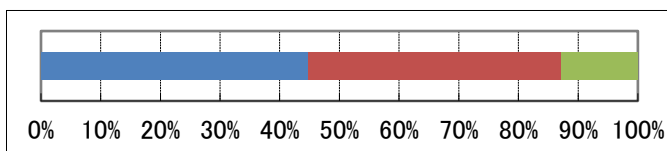
○項目2「きまりを守る指導」については、昨年度から、単に規律の厳粛化に走らず、子どもとともに考え話し合いながら確認していくよう共通理解を図っています。今年度は、各学年でクラス会議や学年会議を短時間で積み重ねるなどして、学校の決まりやルールを見直す取組が増えました。その一端は学校報などでも発信したとおりです。また、公共心の向上は、授業での満足度や学級での関係性を如実に反映したものだという認識を教職員間で改めて確認し、「みんなのことはみんなで決める」という民主主義の基盤をつくる取組を積極的に進めていきます。

Ⅳ 子どもたちの様子について 「うちの子どもは……」

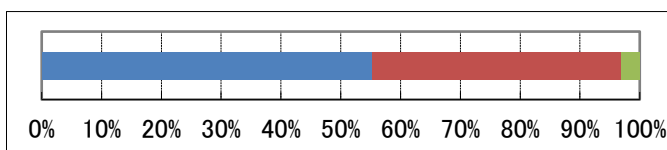
1 学校生活を楽しんでいる。



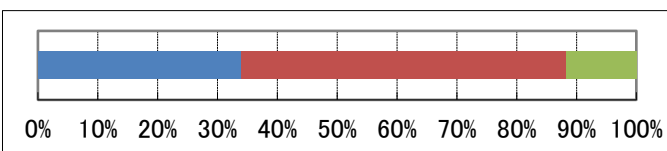
2 努力したこと、工夫したことを認めてもらっている。



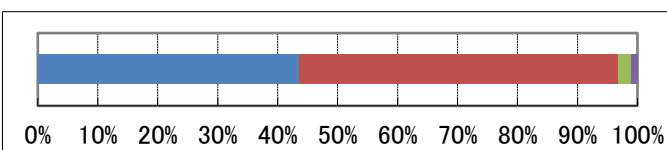
3 学校の約束やきまりを守っている。



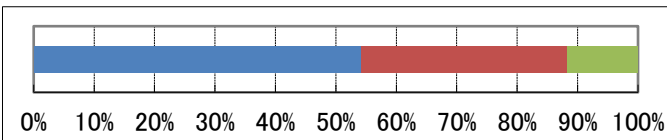
4 あいさつや礼儀が身に付いている。



5 学校で学習したことを理解している。



6 家族の一員として、お手伝いをしている。



【結果の分析と今後の取組の方向】

IVについて

A評価について、項目1「学校生活を楽しんでいる」が6ポイント、項目2「努力や工夫の承認」が19ポイント、項目3「約束やきまりの遵守」が6ポイント、それぞれに昨年度から減少しました。項目6「家庭でのお手伝い」のA評価は、昨年度から17ポイント上昇しました。

○項目2「努力や工夫の承認」では、A評価の大幅な減少について重く受け止めています。今年度は、「子どもを見取る目の解像度を上げる」ことを合い言葉に、全教職員で様々な子どものよさや成長について語り合う機会を数多く設けてきました。いくつかの学級では学級通信を発行し、その一端を実名入りで紹介するなどして、情報発信にも努めてきました。ただ、全ての学年・学級で、見取った成長を十分に子ども自身に伝えることができているかどうか、取組を見直していきます。各教員が、子どもや保護者と成長をともに喜び合う関係が築けるよう、互いの目線を揃えていく手立てを考えていく所存です。

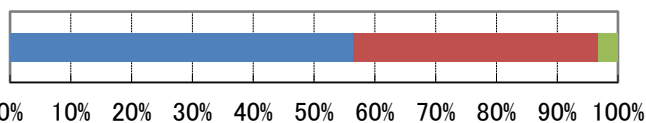
○項目4「あいさつや礼儀」では、昨年度からA評価が低止まりの状況です。躰としての挨拶よりも、相手との信頼関係やコミュニケーションの向上という姿勢を全面に打ち出した取組となるよう努力を継続してはいますが、改善の兆しが見られないのは、項目2の低下とも関係しているのではないかと考えています。信頼関係の構築を重視して、改善に向けた具体的な手立てを考えていきます。

○項目6「お手伝い」は、コロナ禍の制限下で、家庭内で取り組んだことが、家庭生活において定着しつつあるのではないかと捉えています。学校の授業の中で、一層の定着につながる学習内容を構想していきます。

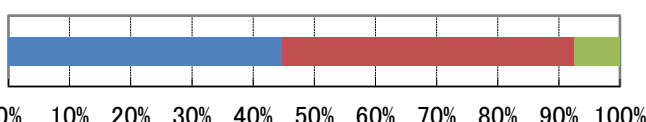
「目指す子ども像」に向かって

のびのび
(生活)

思いやりの心を持ち、互いのよさを認め合って高まろうとする子ども

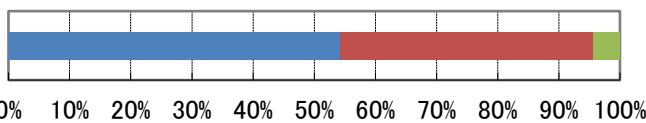


自分で判断して、正しい行動をつらぬく子ども

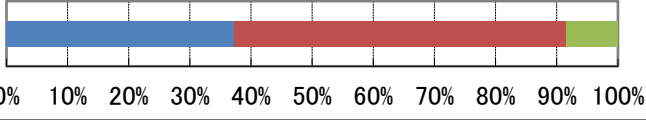


きびきび
(行動)

心身ともに健康で生き生きと活動する子ども

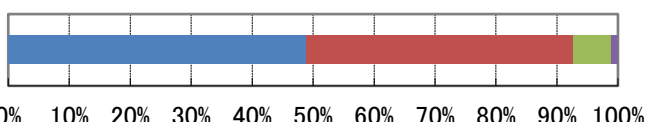


目標を持ち、最後まであきらめず努力する子ども

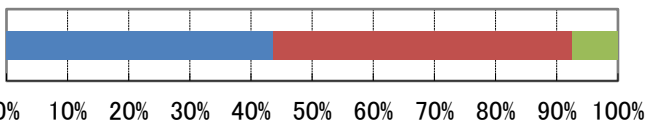


わくわく
(学習)

学ぶ楽しさを見だし、よりよいものを求めて工夫する子ども



自分の可能性を信じ、挑戦する子ども



ABを合わせた評価は全ての項目で90%を超えています。数値も概ね昨年度並みです。各教職員は、学校教育目標「自律」に照らして子どもたちの成長を見取り、その背景や要因まで含めて高い解像度で価値付けることに努力してきました。

特に今年度は、研究紀要の執筆や、教育活動反省の研修会において、研究や学校経営の重点ごとに、具体的な子どもの姿をエピソードで語り合い、その意味や意義について様々な側面から検証する機会を設けてきました。このことにより、今後一層の成長を保障するための方向性や取組の在り方を見通せるようになってきています。

この成果が、子どもや保護者にも実感として伝わるような情報発信の在り方について検討を重ねていきたいと考えています。

D 評価に関する改善の提案等、記述欄の内容について

<記述欄からの抜粋>

○大雨災害時の緊急メールの後、学校に向かおうと自宅に一時帰宅したら、子供が帰宅しており驚いた。また、大雨の影響で明らかに交通に影響が出ている、かつ、秋田市の小中学校の休校が事前に決まっているのにも関わらず、秋田市全域から来る附属では普通登校をするなど、対応に疑問を感じる点もあった。もう少し天気予報や教育委員会などの対応にも耳を傾けて対応すべき。

→緊急時の対応についてご迷惑をお掛けしたことについてお詫びします。この反省を生かし、チェック体制を再点検するなどして、適切な判断を心掛けていきます。

○保護者面談の機会を増やしてほしい。年度の後半にも担任の先生とお話する機会があればありがたいです。ただ先生のお仕事も大変だと思いますので、例えば希望者に限定するなど。

→学校全体で一斉に実施する機会は、7月の夏季休業入りすぐの時期に設けていますが、それ以外の機会で面談をご希望の場合は、担任に連絡をいただければいつでも対応いたします。学校側でも、欠席状況や欠席理由、教室や保健室での様子などから判断し、相談したいことがある場合には連絡を差し上げて面談をお願いすることもあります。どんな些細に思われることでも構いませんので、遠慮なくご連絡、ご相談ください。

○eメッセージで欠席連絡しても、学校が認識したかの連絡が全くないため、伝わっているのか不安です。また、確認したいことがあり、18時に学校に電話しましたが、つながりませんでした。たまたまだったかもしれませんが、双方向の緊急連絡体制を整えてほしいと思いました。

→eメッセージは複数の目で内容を確認し、確実に認識されていますのでご安心ください。気になる記述があるときは、管理職と学年主任、担任、生徒指導主事らで協議し、対応について相談の上、ご連絡を差し上げる場合もあります。また、学校への電話連絡については、通常は16時30分以降受け付けない旨を、昨年度からお伝えしております。問題性の高い内容の場合も、18時以降は受け付けておりません。18時以降に緊急性の高い連絡が必要な場合は、学校の緊急連絡用電話をご利用ください。番号は、年度初め4月1日のメールアプリと、夏季休業中の生活に関する生徒指導主事からのお便りにてお伝えしておりますのでご確認ください。

○年齢が上がるにつれて学校でのことを親に教えてくれなくなり、成長を感じる反面寂しくもなる。保護者面談、はとの子だより、のびのび通信等で学校での生活や様子を知ることができてとても助かる。

→ありがとうございます。できる限り具体的な子どもの姿を通して学校での様子を捉えていただくとともに、教職員とご家庭の方々の目線を共通のものにしていく機会としたいとも考えています。時折いただく感想や励ましの言葉が、大変励みになっています。お気づきのことがありましたら、いつでもご連絡、ご相談ください。

○先生たちにいつもとても感謝しております。いつも熱心に指導をしてくださって感謝しております。学年が上がるにつれて、専門の先生が勉強を教えてくれて子ども達の関心・意欲が高まっていることも感じています。ただ上の子が附中に進学し思ったことは、小学校時代の英語の授業内容で

は英語の学習は読むことと書くことの学習が足りないと思いました。中学校では、小学校で覚えるべき英単語が「読める・書ける」前提で始まりました。聞く・話すだけではなく、書くことやフォニックスなども積極的に取り入れていただきたいです。

→小学校英語では、聞く・話す活動を中心にして、英語に慣れ親しむことが目標となっています。読むことについては、音声を伴って提示された単語や文を読む活動、書くことについては、提示された単語や文を視写する活動こそありますが、音声が伴わない状態で単語や文を読んだり、何も提示しない状態で単語や文を書いたりする能力までは求められていません。フォニックスも、イラストなどを伴いながら、母音と子音の発音がその単語に含まれていることを理解する指導は行っていますが、それ以上の指導は行いませんし、取扱いこそすれ、定着を求められてはいません。小学校で覚えるべき単語というの、活動における必要で覚えた単語はもちろんあるものの、必修単語は示されていません。このような指導事項の特質を前提として、中学校入門期の英語学習が始まっているものと捉えています。大切なことは、小学校段階でたくさんの基礎的事項を詰め込むことで、英語嫌いになってしまわないようにすることです。以上のことが、学習指導要領にも示されておりますので、必要に応じてご参照の上、ご理解いただきたいと思います。

○子どもが授業に飽き気味で困っています。「すごく簡単なことも、周りの人といちいち話し合わなくてはいけない。短時間で理解できる内容を、時間をかけて取り組むから飽きてしまう。」と話しています。以前算数の授業参観で、1問だけをペア同士話し合わせながら発表するのに30分ほどかけていました。残りの時間は教科書の問題を解いて終わりという授業内容で、やはり子どもは完全に飽きていました。子ども同士の話し合いが本当に必要な場面なのかも疑問に思っていました。基本的に皆、附属中に進学し難易度の高い問題にも取り組んでいくので、附中を意識した授業内容にさせていただけるとありがたいです。

→本校が重視しているのは、単に「できる」だけではなく、教科の知識が成立してきた過程そのものを追体験することで、知識や技能が創造・発見されることへの知的好奇心や感動を味わうことです。それを「分かる」ということだと捉えて共通理解しています。また、一つの課題を解く過程で、実は30人の子どもがいれば、解き方、考え方は30とおりにあることを前提とし、学びを自己完結させることなく多様な側面から理解し、揺るぎない知識や技能とすることも大切にしています。こうして身に付けた資質・能力は、高い学習意欲に支えられているため、たとえ未知の課題に行き当たっても、既得の知識や技能を駆使し、他者と協力しながら解決しようとする高次の能力として生きて働くものと考えています。こうした力は、附属中学校に進学し、難問に向き合う場面でも通用するものと信じております。

いま、社会や企業が求めている人材の条件として挙げられているのは、高学歴の人材よりも、未知の課題に他者と協調して取り組める前向きさや、絶えず自らのスキルを高めようと努力を続けられる向上心、困っている人や悩んでいる人が身近にいたときに、自分ができることをして役に立とうとする優しさなどだと言われています。先に挙げた本校の知識・技能観は、こうした人材育成にもつながるものと考えています。

こうした指導の意図が、お子さんや保護者の方々に十分に伝わっていくよう、保護者の皆様との対話の機会、情報交換の機会を積極的に設けていきます。どうぞご理解・ご協力をお願いします。

○学年通信が少ないように思いました。学校生活(勉強を含め)のことを保護者が知るチャンスなので、先生にとってはご負担になるのかもしれませんが、簡単でもその内容を知り得るものがあればありがたいです。

→学年通信の在り方について、今後検討していきます。ご指摘ありがとうございます。

○お便りに関しては、メール配信の後もHPでいつでもすぐ確認できるようにして欲しいです。期限が短く見たい時に切れていたり、いくら探しても見つからないお便りがあって困りました。

→eメッセージに添付したデータについては、1か月で配信が終わる設定となっていますのでご注意ください。HP上に配信するお便りについては、早めに掲載することができるよう心掛けていきます。

○はどの子発表会のような学芸的行事では、一から作り上げる楽しさを味わえるようにし、子どもの可能性を広げられるようにしてほしい。もっともっと子供の可能性を信じて、完成度が低くても自分たちで作ったという達成感を与えたら良いのではないかと思います。習い事の発表会のような声も聞こえています。

→2学期の終業式で発表した子どもたちが、「はどの子発表会」の内容について、学年や学級で話し合いを積み重ねながら、満足のいく発表になったという話をしてくれました。既成の楽曲を使用する

場合でも、その教材がなぜ自分たちに必要で、どのような思いをもって演奏したり歌ったりしたらよいか、どのような表現で自分たちの思いを伝えたらよいかということについて、常に話し合い、試行錯誤している子どもたちの姿も見えています。楽曲の合間に表現した朗読の台本も、子どもたちのオリジナル作品にこだわっていた学年もあります。

本校では、日々の授業での積み重ねをはとの子発表会で表現することをねらいとしており、決まった台本、決まった演奏、決まったフォーメーションを何度も繰り返して練習するようなことはしていません。毎時間、子どもの成長や求めに応じて発表内容は変化しています。発表に向けた授業の時間は、子どもの学びが深まるプロセスそのものであるという考え方で取り組んでいるからです。そのようなプロセスについて、もう少しご家庭に発信できるようにし、ご理解をいただけるよう努力します。

○4校園の交流の機会を増やしてほしい。特別支援学校の生徒さんとの交流は視野を広げられたり、物事をフラットに感じられるようになる貴重な体験なので、親としてもとてもありがたいです。

→本校では、今年度、これまで実施してきた「よつば学習」を、障害理解学習から多様性理解学習へと考え方を広げ、考え方や特徴が異なる他者が相互に認め合い支え合って生きていくことができる共生社会の基盤づくりを、より一層進めようとしています。特別支援学校さんの行事などもある中で、互いの日程を調整しながら、可能な限り交流の機会を設けているところです。今年度は、附属4校園地域協働協議会を本格的に始動し、「学びのコミュニティスクール」としてその機能を強化していくことにしています。まずは各校で取り組んでいる特色ある行事や、各校でお世話になっている地域人材やOBなどについても共有化を進め、積極的に活用しながら活動の幅を広げていく予定です。

○連絡媒体がペーパーレスになりすぎて、先生方からの気持ちも伝わってきづらいつ感じています。せめて毎月の行事予定は紙での発行をお願いしたいです。月の中旬には、次月の初めの週だけでも教えていただきたいです。

→重要性の高いものについては、厳選した上で紙媒体での発行を行っていますのでご理解ください。発行時期については、今後検討し、早めの発行を心掛けていきますが、その場合、諸事情により発行後に予定が変更になることが増え、結局メールアプリでそのお知らせをしてご迷惑をお掛けする可能性があります。その点をどうぞご了承ください。

○近場での車の送迎や乗降が未だに見られる。何度言っても改善されない。対策は学校が具体的に考えてほしい。

→このことについては、長年、本校でも課題として取り組んでいることです。今年度は、無断駐車や近隣の路上での乗降も数多く見られたことから、場合によっては車のナンバーを控えて通報させていただくことも検討しています。保護者の方々の適切な判断をお願いします。

○教科書の順番どおりに進めない方針のようですが、宿題もないため、保護者が進捗状況を把握できず、家庭学習のフォローがしにくくなっています。先生たちの研究も大事な仕事かもしれませんが、児童の基礎学力を定着させるという本来の学校の役割を今一度認識していただきたいです。

→学習指導要領では、国がその発足時から「学校や地域、児童生徒の特色に応じて教育課程の工夫改善に努める」ことを重視しています。また、教科書は、学習指導要領に示された指導事項を、効率的に指導するための参考図書であり、教科書に示された順序で指導を行っていくことや、教科書の内容を網羅することは推奨されていません。本校では、学校教育目標「自律」の実現に向けて、子どもたちの特質を踏まえた「資質・能力系統表」を作成し、学習指導要領の内容のみならず、子どもの実態に応じた指導事項をきめ細かに策定し、計画的に年間指導計画に反映させることで、国が定めた指導事項はもとより、子どもの実態に応じた単元開発を行うなどして、子どもの将来に生きて働く指導計画を作成・実施してきました。また、取組の成果と課題を踏まえて、常に内容を見直したり、実践の記録を蓄積していつでも活用できるようにしたりしています。これは、本校が大学の附属学校だからではなく、全ての国公立学校に求められている取組です。この点をご理解いただきたいと思います。

この点について、保護者の方々にもご理解いただけるよう、情報発信の在り方を検討し、来年度に向けて準備を進めていきたいと考えています。

○授業参観や学校行事などで、落ち着きがなく、私語が多い子どもたちが多かった。発表者や講師に対して失礼なことであるし、先生方が注意しないことにも疑問を感じた。

→ご指摘いただいたことについて、学校でも以前から問題と捉えて指導に当たってきました。教室を出る前に、その行事の目的や心構えについて話したり、どのような姿勢で臨んだらよいかを子どもたちの言葉で引き出して価値付けたり、なぜこの行事や活動が必要なのかについて考える機会をも

つなどして、事前の指導を充実させるようにしてきました。今後も他者の言葉に敬意をもって耳を傾け尊重できる子ども、公共の場でのふるまいについて自覚的に行動できる子どもの育成を目指して指導を継続していきますので、ご家庭でもお声掛けをお願いします。

附属小学校の教育を語る会でいただいたご助言から

2月上旬に、第2回学校評議員会と兼ねるかたちで、附属小学校の教育を語る会（附属学校地域協働協議会小学校部会）を開催し、学校評議員、教育後援会理事長、PTA三役の方々から、本校の教育活動を一巡後、たくさんのご助言をいただきました。主な内容をご紹介します。これらについても、今後の教育活動の一層の充実に向けて役立てていきたいと考えています。

<授業の様子について>

- ・タブレットを活用して学習効果を上げる取組が進んでいる。進捗状況を途中で確認したり、一人一人のよさを見取って他の子どもに還元したりする活動が効果的だった。ただずっとタブレットを眺めているだけでなく、互いのよさに気付かせる時間も大切にしたい。
- ・はどの子学習発表会に参加して、立体と平面の子どもの作品が素晴らしいと感じた。一人一人の個性が発揮されており、先生方がその取組をきちんと評価していた。土台となる基礎の力もともに高めてほしい。
- ・どの学年も成長し、落ち着いてきた。先生たちのこれまでの関わりが実を結びつつある。
- ・「もっとやりたい」という子どもの期待に応える取組、地域の人材を生かす取組に期待している。

<学校経営全般について>

- ・子どもたちの明るい表情にホッとした。挨拶もよくなってきている。
- ・コロナ禍の規制が厳しかった頃は、帰宅した子どもに学校の話聞いても「分からない」という答えばかりで不憫に思っていた。今は、楽しそうに登校していることがありがたく思う。
- ・PTAの学年・学級懇談への参加率は附属小では比較的高いと聞いた。保護者間のコミュニケーションはとても大事なので、大切にしてほしい。自分の子どものことだけでなく、学級や学年の子ども全体への関心を高くして参加意識の向上を図ってほしい。
- ・子ども一人一人に寄り添った配慮ということについて、具体的な手立てを意識して取り組んでほしい。

山本文雄学長より講話をいただきました

6年生が、山本文雄学長をお招きして、講話をいただきました。話題は「心臓の話」です。心臓が全身に血液を送り出す仕組みなどについて、専門的なお話をたくさん聞くことができました。大切な家族を心臓疾患から守る手立てについてもたくさんヒントをいただいたことで、子どもたちは自分事として考えていました。「医者を目指した理由」や「患者に向き合う気持ち」などの質問には「命を助けることにやりがいを感じて医師を目指した。患者さんから感謝の言葉をいただくと、助けてよかったという気持ちになる」「患者さんに対しては、自分の親や子どものように思って接している」など、これからの子どもたちの進路選択に必要な心のもちようについて大事な手掛かりとなるお答えをいただきました。

講話会の後は、6年生と一緒に給食を召し上がりました。近くに座った6年生は、緊張しながらも楽しく会食していました。今年度限りでご勇退される直前に、こうして対面で触れあえる機会をいただくことができ、有意義な時間となりました。

